

皆満寺通信 第8号

東北地方太平洋沖地震により被災した方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

東北地方太平洋沖地震救援金勧募のお願い

3月11日に起きた、東北地方太平洋沖地震は、想像を超えた自然が猛威をふるい、未曾有の甚大な被害をもたらしました。

日を追う毎に顕わになる災害の全容や、被災時の状況が明らかになるにつれ、言葉を失い、人知に限りあることを痛感するとともに、決して思い通りに生きることが出来ない、生かされた「いのち」であることを思わずにはいられません。まさに、私がいのちを生きているのではなしに、いのちが私を生きているのだと知られます。

さて、真宗大谷派に於いて、この度の震災に際し、宗派を挙げて被災地の支援を行う決定がなされ、3月19日から予定されていた第1期宗祖御遠忌法要が中止になりました。なお、第1期法要が予定されていた期間には、「被災者支援の集い」が開催されました。

また、全国の大谷派の寺院に災害救援金勧募の依頼がなされています。この災害救援金は、各地より、本山へ集約され、宗派としての被災地への継続的な支援に充てられます。そこで、当寺としましても、お預かりしている全ご門徒に対し、ご理解とご支援をお願いすることに致しました。

既に、寺の庫裏の玄関に救援金箱を設置し、3月の彼岸会法要時や、お同行の寄り合いの折に救援金を頂戴しております。お一人でも多くのご門徒のご理解とご賛同をお願い申し上げます。

合掌

2011年4月1日

真宗大谷派 皆満寺住職 永尾 圭吾

勧募方法

- ① お寺へ直接お届けいただく
- ② 郵便振替口座をご利用いただく

記号 **00860** 番号 **006231** **カイマンジ**

他の金融機関からお振り込みいただく場合

ゆうちょ銀行 ○八九店 (ゼロハチキュウ店)
当座 **0006231** **カイマンジ**
金融機関コード **9900** 店番 **089**

- ① ②いずれかの方法でお願い致します。

お寄せいただきました救援金は第1期4月24日締め、第2期6月24日締めで組、教区を経てご本山へ送金いたします。

宗派としての今災害への対応は宗派HPにて公開されていますので、ご覧下さい。

「東本願寺」で検索いただけます。

<http://www.higashihonganji.or.jp/>

また、宗派では、災害救援本部が宗務所に設けられて、米、レトルト食品の提供も呼びかけられており、当寺も既に米を提供いたしました。これらは継続しての支援となると思われるので、ご賛同いただける方は、お手数ですが、お寺までお持ちより下さい。

既に多方面で義援金、支援物資の提供をお済ませのことと存じます。当寺としても全ご門徒へお願いをするかどうか迷いましたが、親鸞聖人が大切にされた、御同朋、御同行の精神が今こそ必要にされていると思い、全ご門徒へのお願いという形をとらせていただきました。何卒よろしくお願い致します。

誕生児初参り延期のお知らせ

5月7日(土)午後2時からに変更

4月2日(土)に予定していましたが、誕生児初参り、親鸞聖人御誕生会兼花祭りを諸事情により5月7日(土)に延期いたしました。

当初は、今回の災害を受けて中止も考えましたが、こんな時だからこそ、いのちを大切に生きようと願い立つ仏事を回復していくためにも、延期して開催することに致しました。

申込用紙はHP上でダウンロード出来ますので、お役立て下さい。

急な変更で、HP上でのお知らせにとどめたこととお詫びいたします。

第41回親鸞聖人御誕生会

6月18日(土)13時

記念講演・五木 寛之氏

「親鸞聖人の^{こころ}情」

中日新聞紙上などで連載されている、五木寛之氏の小説「親鸞」を読まれている方も多いかと思います。

その五木氏の記念講演会が6月18日(土)に半田市福祉文化会館(雁宿ホール)で行われます。

五木氏には、この親鸞聖人御誕生会、記念講演会へ、過去、2度お越し頂いており、とても好評でした。五木氏は、僧侶としてではなく、一真宗人、一真宗門徒として親鸞聖人をとても大切に受け止めておいでになっています。是非、五木氏のお話をこの機会にお聞き下さい。

入場料は1,000円(前売りチケット)です。寺でとりあえず50枚確保してあります。お問い合わせはお寺まで。

住職のつぶやき

法語

「要」はもつぱらという、もとむという、ちぎるというなり。「法」は、名号なり

『唯信鈔文意』～親鸞聖人～

楽しみにしていた御遠忌が中止になった。この震災の被害状況を見れば当然だとも思うが、残念にも思う。

そもそも、御遠忌に限らず、法要っていったい何なんだろう?と思うことがよくある。

今、行われている法要のほとんどが、葬儀を縁に勤められているものだ。寺は亡くなってから関わるものだと、ほとんどの人が思っている。これは明治以降の国策であった国家神道と無関係でないことは、あまり意識されていない。しかし、今更そんなことを言っても始まらないし、葬儀すら危うくなってきている昨今では、その関わりすら危ぶまれる。

さて、法要である。親鸞聖人は明確に押さえておられる。名号(南無阿弥陀仏=人間の暗く深い闇を破る智慧、光、人として生き抜く力=他力)を専らに求めてやまないことなのだ。いのちに目覚めゆくハタラキを心の底から欲する、自らの尊厳に目覚めせしむるものに出遇っていくことなのだ。

震災があった今だからこそ、いのちの目覚めそのものが求められているのではないかとつくづく思う。

派手にお祭り騒ぎのような御遠忌を勤めなくても良いが、震災の犠牲者を、被災者を悼む心をそのままに名号を専らに求むことを止めてはならないと思うのだ。

皆満寺通信第8号

2011年4月1日発行

知多郡武豊町宇下門137

真宗大谷派 皆満寺

TEL0569-72-0435 FAX0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail postmaster@kaimanji.or.jp